

永原学園地域子育て支援センター  
**さんこう・ぽぽらだより**  
 令和5年12月発行・第200号  
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園  
 TEL:0952-31-6877

### ふれあい遊び

ぽぽらの活動に“赤ちゃんの日”があります。

最近は、お父さんも参加されるところが増えてきて、とても頼もしく感じています。中でも赤ちゃんとのふれあい遊びは不慣れなのでは？と推測するのですが、優しい視線で赤ちゃんとのコミュニケーションをとっておられる様子を見て驚いています。お子様との間で、やり取りや関りを楽しむあやし文化は、共感の根っことなる、心地よさや面白さを育てることが大事だと言われています。「いっぽんばし こ〜ちょこちょ〜♪」と歌いながらしぐさを始めると、子どもは待っていたかのように体をくねらせ笑い声と出して、大人からの働きかけに応じてくれます。10カ月を少し超えると人見知りが出てきて、私のような時々しか遊ばない保育者には警戒する時期がありますが、大好きな保育者を通して、私の手遊びにも喜んでくれるようになります。声を出して笑う子どもと遊んでいると元気・勇気百倍になるシニア群です(^.^。)

三光保育園園長

### ♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。  
 事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

### さんこう・ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

【開園日】月～金曜(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】9:00～12:30

※園行事の為、ご利用できない場合があります。

※出前支援の日は、担当職員は不在です。

※その他

12:30～13:30 昼休み・準備の為閉園

13:30～16:00 この時間帯のご利用は、電話での申し込みをお願いいたします。

11月の活動は絵具を使って思い思いに描いていました！初めて絵具に触れる子どもたちも多く、いろいろな色を楽しんでいましたよ♪赤ちゃんの日は足形アートをしました。子どもたちの足形が・・・トナカイさんになりました(^^♪



### 「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？  
 日時：12/15(金)・1/11(木)

### 12月・1月の「子育て支援事業」のお知らせ

#### ① 実施日

- ・12月6日(水) …東与賀よかよかスクール
- ・12月11日(月) …赤ちゃんの日(クリスマス)
- ・12月20日(水) …なかよしミックス(クリスマス)
- ・12月21日(木)・22日(金)・25日(月)…フリーディ

- ・1月15日(月) …なかよしミックス(お店屋さんごっこ)
- ・1月22日(月) …若楠にこにこサークル
- ・1月25日(木) …高木瀬あいあいサークル
- ・1月26日(金) …赤ちゃんの日(写真アート)
- ・1月30日(火)・31日(水) …フリーディ

#### ②時間：10時～12時

#### ③開催場所：運動場・子育て支援センター

※事前の電話での申し込みが必要です。

12月の申し込み 12/1(水)～ 9時半～17時

1月の申し込み 1/9(火)～ 9時半～17時

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。  
 ※フリーディは予約は必要ありません。ご都合が付く日にご来園ください。  
 ※感染対策にご協力ください。  
 ※詳しくは「さんこうぽぽら」ホームページをご覧ください。



## 「子育てで心がけたいこと」

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 講師 大村綾

私は短期大学部で保育者養成に携わっています。先日、「子育て支援」という授業の中で、子育て支援のニーズについて話す機会がありました。その際、乳幼児を育てるお母さんが望む一人の時間について、どのようなものをイメージするかを学生に聞いてみたところ、「テレビ（動画）を観たい」、「友達と出かけたい」、「寝たい」などの意見が出てきました。もちろんこのような要望もあるかと思いますが、ある調査結果から見てきたのは、「トイレに一人で入りたい」、「たまには手足を伸ばしてゆっくり湯船につかりたい」というものでした。この結果を聞いた時の学生の反応は、「自分たちが今当たり前にやっていることが、子育て中のお母さんにとっては、もしかしたら特別なことなのかもしれない」というものでした。

この話を学生にする時、自分の子どもが小さかった頃の子育てを思い出します。我が子が1歳になる前の後追いが激しかった時期、私の姿が見えなくなるとすぐに大泣きする娘の対応にクタクタになっていました。トイレに行く時はもちろんのこと、洗濯や掃除、料理をする時など、少しでも傍らから離れると泣いていたので、思うように家事が進まずイライラしてしまうこともしばしばでした。ちょうどその時期は育児休暇中で、子どもと終日一緒に過ごす日々でした。一日の終わりには、「今日一日、私はいったい何をしていたんだろう…」と思うこともありました。

そんな時、知人から紹介されたある1冊の本に出合いました。『今日』（福音館書店(2013)、訳：伊藤比呂美）という、子育て中のお母さんに向けた絵本です。子どもの育児に大わらわで自分のことは後回し、家事や掃除もままならず、自分の不甲斐なさに落ち込む母親が主人公です。しかし、この母親は子どもが眠るまでおっぱいをやっていました。子どもが泣きやむまで、ずっと抱っこをしていました。子どもとかくれんぼをしたり、歌ったり、して良いことと悪いことを教えたりと、かけがえのない我が子に愛情をもって関わっていました。そんなお母さんに「今、我が子をいつくしんでやれているのなら、それで大丈夫だよ」とエールを送ってくれる絵本です。そして「やらなかったこと」、「できなかったこと」に自信をなくしていた私に、元気を与えてくれた絵本でもありました。

子育てをしていると、子ども中心の生活でいつも時間に追われ、あっという間に一日が過ぎてしまった、ということがあるかもしれません。そんな時、母親として過ごした「今日」が肯定できれば、お子様との時間がますますかけがえのないものになるのではないのでしょうか。

